WAKU WAKU

研究だより

府中町立府中南小学校

No.2 令和7年4月 25 日

学びの基盤を整える「評言」

4月、本当にお疲れ様でした。新しい環境、新しいメンバーなど、子どもたちはもちろん私たちも手探り。そんな状況ではないでしょうか？私は、悩みながらの4月です。

「自己内対話」と言っても、まだ安心して学べる環境、さらには学びに向かう心などの基盤が整っていない中では難しさがあります。不安定だからこそ、教師がどんな言葉をかけるか、どんな「評言」をかけるかによってこの基盤が整備されていくように思います。無意識に取り組んだつもりの子どもたちの学びを教師が、「よかったよ」「その学び方がすごい」と「評言」をかけるから、「よかったのかぁ」と認識して他の子たちにも広がっていきます。また、「ふりかえり」を効果的に活用することで、学びに向かう心を育むことにもつながりますね。多くのクラスを参観に行かせてもらえていないのですが、「すごいなぁ」と私が学びになった場面を紹介しますね。

授業の冒頭に、前時の子どもたちの「ふりかえり」を紹介するところからスタート。ただ紹介されるだけではなく、「ここがいいよね」と一人ずつが綴っている視点、内容のよさを価値づけられていました。子どもたちの「ふりかえり」を使いながら、前時の学びを想起させ、さらには「ふりかえり」が書けない子たちが「そう書いたらいいのか」という手立てにされていました。また、各時間の「ふりかえり」を「ポートフォリオ」にしておられ、一人ずつが「できた」と実感することにつがなる「ふりかえりカード」を作られていてすごいです。しかも、単元計画も記載されて！

さて、クイズです。写真の中のどこに佐々木先生がおられるでしょうか？子どもたちが前に出て来ると、佐々木先生は教室の端にフェードアウト。自然に発表する子の目線が、教師ではなく子どもたちに向くようにされていました。しかも、聞いている子たちと同じ目線になりながら、聴き方のお手本を示し、「この説明いいなぁ」「ここは、どういうことかなぁ」などと、教師が言いたいこと、教えたいことを子どもが考え、アウトプットするようにファシリテートされていました。「どういうことだろう？」と子どもが「自己内対話」しやすくなる道筋を先生の「評言」により示しておられ、「たくみだなぁ」と勉強になりました。

☆どうされていますか？？教えてください！！☆

「ふりかえり」が書きにくい子には、どんな手立てや指導をされていますか？

いい「ふりかえり」だと思った子の「ふりかえり」を、授業冒頭に紹介します。読んで紹介するだけではなく、Word で打ち込み電子黒板に映し、読んでも理解できるようにしています。また、「ふりかえり」を書く時に再度電子黒板に映し、書きにくい子の手立てにしています。学級の仲間のいいふりかえりを、真似できることからはじめています。